

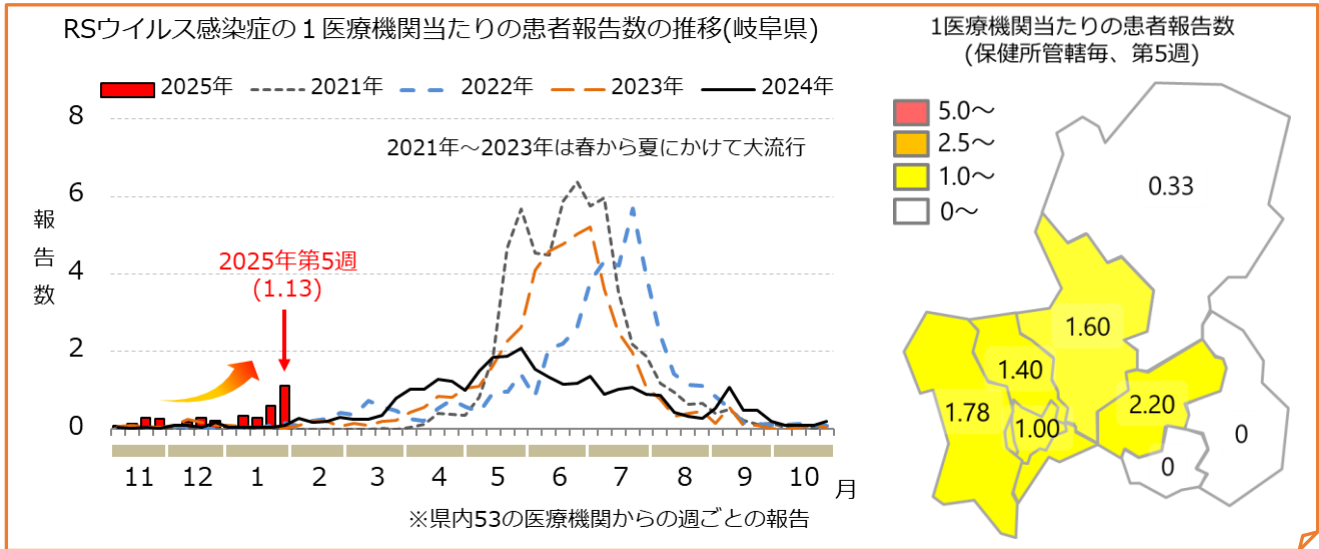
ぎふ感染症かわら版

令和7年2月6日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



RS ウイルス感染症に流行の兆候がみられます。

2021年以降、春から夏にかけて季節性の流行がみられるRSウイルス感染症ですが、今年からは年明けから患者報告数に増加傾向がみられ、今後急増する可能性があります。RSウイルス感染症は、赤ちゃんや基礎疾患を持つ小児、高齢者に注意が必要な感染症です。ご家族に該当する方がいる場合は、日常での感染予防を特にお願いします。



RSウイルスの感染に注意が必要な人

- ◆ 生後6か月までの乳児
- ◆ 心臓や肺、または免疫不全の基礎疾患をもつ小児
- ◆ 慢性呼吸器疾患（ぜんそくなど）の基礎疾患をもつ高齢者



RSウイルス感染症は、はじめて感染した場合は重くなりやすく、特に赤ちゃんでは細気管支炎や肺炎などの重い症状をおこしやすくなります。

感染している人のくしゃみや咳などによる飛沫感染、あるいはウイルスの付いた手指などを介した接触感染によってうつりますので、一般的な予防が大切です。

- 石けんを使った手洗いと、アルコールによる手指の消毒をおこないましょう
- かぜのような症状があるときは、できるだけ赤ちゃんや高齢者と身近に接することを控えましょう

年長のお子さんや大人の場合、RSウイルスに感染しても、軽い症状で済むことが多いため、気づかずに赤ちゃんにうつしてしまうことがあります。

- 咳が出るときはマスクを着用し、咳エチケットを心がけましょう

※RSウイルスには、任意接種となりますが予防接種があります（重症化予防を目的とした、60歳以上の成人もしくは重症化リスクの高い50～59歳を接種対象としたものや、下気道疾患の予防を目的とした、妊娠24～36週の妊婦を接種対象としたもの）。ご心配な方はかかりつけ医にご相談ください。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

